

『東円寺では、江戸時代から続く「お会式」という行事を 11 月に行っておるんじゃ。天台宗は伝教大師最澄様が遣唐使とともに中国に渡り、天台山に行き研鑽を深め、天台大師（天台大師智顛）の教えを会得して、帰国後、日本天台宗を開いたんじゃ。天台大師の入滅日は、11 月 24 日なんじゃよ。天台宗では天台大師を高祖、伝教大師を宗祖と呼んで尊崇しているんじゃが、天台大師の入滅された 11 月は霜月会という法要を行っておるんじゃよ。東円寺は江戸時代から、天台大師と合わせて伝教大師様に対しても報恩感謝をもち、正確な名称は両大師会という法要と、合わせて、先祖供養を行う法要を 11 月 3 日に行っているんじゃよ。今年は、11 月 8 日に神奈川教区の霜月会が東円寺で行われたんじゃよ。』

『山梨県に住職が在住している天台宗の寺院は東円寺だけでまっすん。明治の廃仏稀釈までは、山梨教区があつたでまっすん。けれども、廃仏稀釈によって多くの寺院が廃寺となつたでまっすん。正確な経緯はわからないけれど、現在は、神奈川教区の山梨部として仲間に入れてもらっているでまっすん。』

『今月に入って、凄惨な事件が新聞やニュースで取り上げられておる。内容を書くにはおぞましすぎるのでやめておくが、大雨や台風、また地震などの自然災害によって、数年の間に多くの尊い命が奪われていることだけでも胸が痛むが、人の手によって、また、自ら命を絶つ者が後を絶たない現状にも憤りを感じておるんじゃよ。今日は、追善和讃という御詠歌の歌詞を紹介したいと思うんじゃよ。』

『人生は、明るく楽しいことばかりがあるわけではないでまっすん。一瞬たりとも時は止まることなく、移り変わっているでまっすん。この世は無常であるけれど、救いもあるでまっすん。生かされている喜びと悲しみ、亡くなられた方を偲びながら追善和讃の歌詞を感じてもらいたいでまっすん。』

- 1・春の朝に咲きにおう 花も夕べの風にちり 秋の夜空の月さえも 満つればやがて欠くるなり
- 2・げに現世のものみなは 移り変わりが停まらず われ人ともに泡沫の はかなく消ゆる身なるかな
- 3・睦みかわせし面影の 幽明はるか隔たりて いまは相見んよしもなし 嗚呼在りし日の偲ばるる
- 4・さわれ仏はみ恵みの み手の諸人いだきあげ 永久の命とよるこびを 与えたもうぞ畏けれ

『生きることは辛く悲しいことが多い。けれども、天台大師様や伝教大師様は、仏の道を究めて、どのようなことを心がけて生きれば、人は幸福を感じる事が出来るかを教えてください。実行するのは簡単ではないがのう・・・』

『どれほど文明が発達して、便利で豊かな時代になっても、生きる根幹はいつの時代も変わらないでまっすん。』

『人間に生まれることができたことは、大きな喜びであることを知っていてほしいのう。命を粗末にするようなことはあってはならないことじゃ。さて、次回こそ、富士山世界文化遺産の構成資産について話しができるかのう・・・』

『次回、どのような話ができるか、楽しみでまっすん。』

クニマッスン

出生地 忍野村  
山梨県水産技術センター  
□癖 でまっすん..



ふじのだいがこうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳  
職業 大我講の先達<sup>せんだつ</sup>  
(先達とは案内責任者)